



北海道立図書館のサイロ

当館のサイロが「江別市の煉瓦建造物」の1つとして、経済産業省から地域活性化に役立つ「近代化産業遺産群 続33」に認定されました。（9ページに関連記事掲載）

目 次

「に れ」	1
「こどもの読書週間」関連事業	2～3
子ども向け図書館ツアー「ぼくらは図書館たんけん隊」	
「あつまれ！森林公園クイズラリー」	
資料展「笑顔のヒミツは本の中」	
平成21年度全道図書館新任職員研修会	4
所蔵資料展	5
所蔵資料紹介『西南戦役従軍記録』	6
道内図書館紹介「昨年12月、遠軽町図書館は移転しました。」	7～8
北海道立図書館のサイロ	9
掲示板	10～11

新米館長の独り言

北海道立図書館長 巻渕 雄二

○ ベンチ

最近の話であるが、大変嬉しいことがあった。ある道民の方から「ベンチがあれば野外でも読書が出来ていいんだけど」といったご意見があった。確かに当館の敷地にはベンチがない。そこで、お金をかけずにベンチを設置するにはどうしたら良いか。思案の結果、材料を用意して、製作は札幌工業高校建築科の生徒さんをお願いすることとした。

そして、過日ベンチが完成し、担当の先生と生徒さん6人が当館を訪れてくれた。まずは、生徒さんたちの素直で朴訥とした振る舞いに感心。ベンチの出来はと言うと、予想以上に大きく頑丈である。また、図書館をイメージして背もたれが本を開いた形になっており、斬新かつユニークなデザインである。生徒さんたちの苦勞が偲ばれる素晴らしい作品で感動。先生によれば、「製作の依頼があったのは今回が初めてであり、生徒たちも励みとなり、良い物を作ろうと頑張った。」とのことである。ならば、依頼者としてもこれ以上の喜びはない。

今、五脚のベンチは、図書館前庭の一角に在って、ユニークな目を引く姿でその存在感を誇示しながら、憩いの場として来館者に安らぎを与えている。

さて、私の朝の仕事の始まりはと言えば、ベンチとの会話である。

「ベンチよ。元気でいてくれたか。」



○ 共 育 (きょういく)

教育とは、教え育てると書く。学校教育で言えば、教員が学問・知識・技能などが身に付くよう児童・生徒に教え育てる。一方、教員もまた様々な個性・能力・興味・関心を持った児童・生徒との触れ合いを通して、人間として、教員として成長していく。教える側、教えられる側、双方が共に育つのである。正しく「共育」である。

「学校」を「道立図書館」に置き換えた場合、道立図書館にとって「共育」とは？

「何でもわかる図書館」、「道民みんなの図書館」として、道民の多様なニーズに的確に応える図書館に育つ。「図書館の図書館」として、市町村と一体となった図書館に育つ。道立図書館は、道民・市町村と共に育つ図書館である。

こどもの読書週間（4月23日～5月12日）関連事業

道立図書館では、4月23日の「子ども読書の日」から始まる「こどもの読書週間」に合わせて、さまざまな事業を行っています。

■ 子ども向け図書館ツアー「ぼくらは図書館たんけん隊」

期日：5月5日（水）14：00～15：30

会場：1F 研修室～書庫等

5月5日のこどもの日に合わせた、子ども向け図書館ツアー「ぼくらは図書館たんけん隊」を開催し、当日は親子連れを中心に14名の参加がありました。

ツアーに先立って、道立図書館を利用するための基本的な事柄を説明しました。図書館の本がどのように書架に並べられているのか、利用者検索機からプリントアウトされた閲覧票のどの部分を見れば書棚の場所が分かるのか、といったことを図書館博士に扮した職員がわかりやすく話しました。

続いて、“本探しゲーム”です。クイズの「タネ」が入った封筒を手渡された子どもたちが、半分に切られた閲覧票を手がかりに、書庫の中から本を探し出してくるゲームを行い、説明した内容の“おさらい”をしました。（探し出した本の中には、ツアーの参加記念品の手作りしおりが挟みこまれていて、子どもたちは二度ビックリ。）

後半は、図書館ツアーとして普段は職員しか入れない閉架書庫など、道内有数規模の広い図書館内を見学して回り、子どもたちは、階段の多い館内を元気に上り下りしました。

また、新聞が収蔵されている書庫では、自分が生まれた日の新聞が大切に保管されていることに目を丸くして驚き、館長室では順番に館長席に座ってみるなど、大満足のひとつ時を過ごしました。

（奉仕部参考調査課）



館長室で席に座る



事務室で業務の説明



誕生日の新聞を見る

■「あつまれ！森林公園クイズラリー」

期日：5月2日（土）～6日（水）

主催（開催場所）：北海道立図書館、北海道開拓記念館、北海道開拓の村、
自然ふれあい交流館、北海道立埋蔵文化財センター

このイベントは北海道開拓記念館が中心となっていて行われている事業ですが、道立図書館は、昨年から共催に加わっています。野幌森林公園付近にある5つの施設をクイズラリー形式で見学し、3施設で「ゴールイン（達成記念品）」、全施設をまわると「パーフェクト賞（カード）」を渡しました。



今年は、スタンプラリーのために、参加施設ごとにスタンプを作りました。道立図書館のスタンプは「サイロ」をかたどったものです。（今年2月に経済産業省の近代化産業遺産に認定されました。）参加者は各施設をまわり、スタンプを集めて楽しまれたようでした。

また、今年は、家族そろって参加していただけるように、参加対象者を子どもに制限しなかったため、大人の方もたくさん参加され、大変好評でした。

開催期間が昨年より2日多く、天候に恵まれたこともあって、昨年よりもたくさんの方が参加されました。5日間の総参加者数は1,547名、当館には215名が訪れました。

（業務部業務課）

■資料展「笑顔のヒミツは本の中」

期日：4月14日～5月28日

会場：1F 児童コーナー

毎年、児童コーナーでは「こどもの読書週間」期間中、児童書の展示を行っています。

今回の展示は、今年の「こどもの読書週間」の標語である「笑顔のヒミツは本の中」にちなみ、“ひみつ”や“ないしょ”をキーワードに持つ絵本を中心に約40冊を展示し、多くの利用がありました。



（奉仕部奉仕課）

平成 21 年度全道図書館新任職員研修会に 45 名参加

6月3日から5日の3日間、北海道図書館振興協議会と北海道立図書館の主催による平成21年度図書館新任職員研修会が開催され、今年度は、昨年より19名多い、45名の職員が参加しました。

1日目は、市立小樽図書館の野口館長が「図書館の役割とあり方を考える」について講義、岩見沢市立図書館の辻村氏が「カウンターの仕事」として、利用者の様々な対応について講義しました。

2日目は、滝川市立図書館の深村氏が「児童サービス」の必要性から、読み聞かせ等を実演し、演じるポイント等をアドバイスしました。「お互いの図書館を知ろう」は、グループに分かれお互いの図書館の課題や解決方法等を話し合い、その後の全体での情報交換では、江別市情報図書館の城川氏から、様々な悩みや課題について現場からの具体的なアドバイスがあり、「利用者の視点に立って」とのアドバイスが印象的でした。

3日目は、「レファレンス」の講義と演習、事前課題の資料の探し方や地域資料の収集等の演習でした。「図書館のPR」は、グループで、福祉センターや動物園等、街の施設で図書館をPRするポスターを作成、色紙やコップを使った様々なアイデアのポスターが披露されました。

3日間の研修では、図書館の基本を学ぶだけでなく、道内で活躍されている司書の方の講義や実技、アドバイス等が聞けてよかった、グループ演習等で他の図書館や職員との交流が大きな財産になったとの感想が多く聞かれました。

(業務部市町村支援課)



エプロンシアターを演じる深村氏



児童サービス 全員で手遊びを体験



情報交換 お互いの図書館の課題を話し合う



図書館PR 作成したポスターをアピール

所蔵資料展

■ エントランスホール展示 「タネまき」からはじめよう」

期日：平成21年3月3日（火）～5月28日（木）

会場：1F エントランスホール

“タネまき”とは、ここでは小さなものから大きく、豊かなものへと成長の芽を育むことを意味し、春の到来に当たり、大きな実りへの小さな第一歩を探るヒントを、当館所蔵資料の中から探していただくというコンセプトで資料展示を行いました。



それぞれ次の4つのコーナーに分けて資料を展示しました。①“タネまき”の本（大人向け）、②ガーデニングの本、③タネまき”の本（子ども向け）、④子どもの読書に関する本。

これらの展示のうち、①～③については、文字どおり草花を栽培するための資料を、④については、精神的な意味で、読書の喜びを契機に、子どもの心を豊かに育むことを“タネまき”と解釈し、読書の大切さについて書かれた資料を、それぞれ紹介しました。

（奉仕部奉仕課）

■ 北方資料室展示 「応援します！北海道企業」

期日：平成21年2月28日（土）～4月29日（水）

会場：中2F 展示コーナー

大変厳しい道内の経済情勢に対応する図書館からの情報発信として企画しました。

北海道経済を支える道内企業に関連した資料を、「北海道の制度・計画」、「技術開発・調査レポート」、「社史・企業紹介」、「チャレンジする企業事例集」のコーナーを設け蔵書約80点を紹介しました。あわせて、北海道経済産業局、北海道中小企業総合支援センター、中小企業基盤整備機構北海道支部、こくみん創業支援センター北海道、道経済部商工金融課など関係機関のご協力をいただき、起業や中小企業支援についての最新のパンフレット・リーフレット類、約50種を自由にお持ちいただけるよう配置しました。開催期間中は、多くの方にご覧いただきましたが、遠方からパンフレット類を求めて来られた方もいて、好評のうちに終了しました。

北方資料室では、今日的な課題に対応した資料も各分野にわたり積極的に収集しています。今後も様々な関係機関との連携を深め、ご協力をいただきながら資料の紹介、情報の提供に努めていきたいと思っております。

（北方資料部）



『西南戦役従軍記録』(55冊)

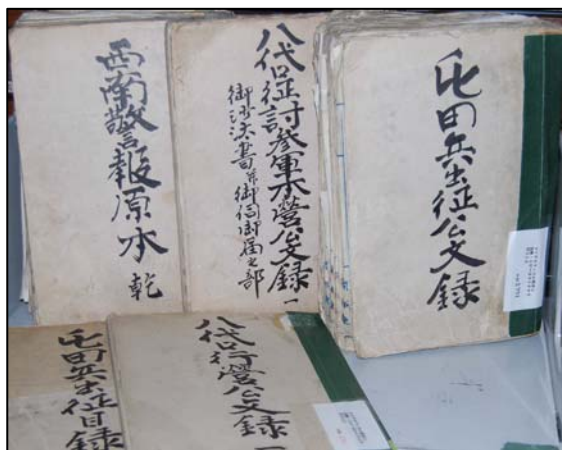
北海道の初期の開拓は、内地からのいろいろな形での移住によって進められました。北海道開発庁の広報誌『北のいぶき』にシリーズで連載された榎本守恵氏の「ほっかいどう移民史」(注1)では、士族の移住、会社組織による開拓移民、宗教移民、洪水移民、無願開墾(正規の手続きをとらずに入植)、社会事業の移民、大学演習林内殖民などと類型化して紹介しています。

その中のひとつとして屯田兵の移住があります。明治4年の明治新政府の廃藩置県によって、大量の士族が失業し、その救済策として北海道の警備と開拓の任にあたる屯田兵制度が黒田清隆の建議によって、明治7年に創設されました。そして明治8年に最初の屯田兵が札幌の琴似兵村へ入植したのです。制度発足の初めは士族を対象として募集していましたが、明治22年11月の屯田兵召募規則で属籍に関係なく志願できるようになり、農民出身者が多くなります。

明治10年、西郷隆盛を中心とした明治維新後、最後の士族の反乱、西南戦争が勃発し、これに琴似・山鼻両兵村の屯田兵第一大隊が出征を命ぜられるのが4月10日で、8月16日に帰郷命令を受け、9月30日に札幌に戻ります。当館所蔵の『西南戦役従軍記録』54冊は、屯田兵がこの西南戦争に出征した時の記録です。

55冊の標題は以下のとおりです。屯田兵を所管する組織は、開拓使の屯田事務局(後に屯田事務係)に置かれていましたので、下記の文書のほとんどは、開拓使の名の入った野紙を使っています。

『屯田兵出征目録』(日録の間違いか)、
 『屯田兵出征公文録』、『従軍出張姓名簿』、
 『西南公文録 草稿』、『西南役文書』、『西南事件雑書』、『分捕品賊徒名簿並日記』、『暴徒発配一件』、『八代口征討総人員名簿』、『参軍本営人名』、『鹿児島出張日誌』(5冊)、
 『鹿児島出張日誌附録』(4冊)、
 『鹿児島出張日誌抜粋』、『鹿児島紀行附録』、『肥薩従行日誌』(2冊)、
 『西京出張日誌』(4冊)、
 『八代口征討日誌摘録』、『八代口行営公文録』(3冊)、
 『八代口征討死傷概表』、『八代口征討戦記』、『衝背軍軍団紀事』、『軍団紀事原稿』(2冊)、
 『戦闘報告類』、『警報摘要』(3冊)、
 『賊軍河尻墓標録』、『八代口征討参軍本営公文録』(13冊)、
 『西南警報原本 乾』(順不同) (注2)



これらの史料が研究者に大いに活用されて、新しい知見が発表されることを期待します。

(注1) 「ほっかいどう移民史」は連載記事を複製して1冊にまとめたものもあります。(請求記号: 334.5/HO)

(注2) 請求記号: 原本は393.9/TO、マイクロフィルム(資料名は『西南公文録(関係文書)』及び『黎明館(北海道)文献』はM1683~1692、2751~2753)

昨年12月、遠軽町図書館は移転しました。

遠軽町図書館長 佐川 哲史

「わあ〜っ！ひろ〜い！」。

昨年12月20日、移転し開館した「新遠軽町図書館」の第一歩は、この日を心待ちにしていた子どもたちの、館内を見回しながらの発声から始まりました。

旧遠軽町図書館は、昭和56年3月26日に遠軽地区7町村内の最初の図書館としてオープンし、町内はもとより近隣町村の多くの方々の利用に応じてきました。

しかし、入口を入るとすぐ階段があるなど、お年寄りや障害をお持ちの方、小さなお子さんを連れられた方には不便な施設でした。バリアフリー化の検討は、従来から行ってきましたが、構造的・経費的な問題などにより、実現できないままでした。

そのような状況下、生活協同組合コープさっぽろの新店舗建設により空きとなった旧店舗が、立地条件や規模、ワンフロア構造など図書館として適していることから、一昨年秋頃、取得に向けコープさっぽろ様に打診したところ、昨年2月頃、「地域貢献を考慮し交渉に応ずる。」との返答をいただき、5月、建物についてはご寄附いただけることとなりました。

これを受け、改修費用の予算化、移転作業、条例改正を行い、12月20日開館しました。



図書館外観：外構工事（パーゴラ設置・芝貼り・植樹・自転車置き場設置）は7月17日に完成しました。

移転作業は、図書館の休館を最大1ヶ月とし、教育委員会、町長部局の協力を受け最小限の経費で行う方針としました。旧図書館を11月22日まで開館し、先行して行った作業を除き、12月19日までの間に図書・備品等の移動や開館準備を行いました。11月下旬の作業では他の部署から1日最大50人を超える職員が協力してくれました。

新図書館は、延べ床面積が旧図書館の約1.3倍の約1,450㎡、開架書庫及び閲覧スペースの面積が約1.5倍の790㎡あります。書架等の備品は、一般開架用書架を除き、旧図書館で使用していたものをそのまま使用していますが、書架間の間隔を90cmから130cmに広げて配置し、また、一般書架の最上部の棚の高さを20cm低い160cmに抑えるなどしています。

スタッフは、専任職員2人、嘱託職員3人及び臨時職員5人で、3～5人体制で業務を行っています。開催事業については、「はじめましてえほん」「童話の時間」などの幼児・児童向け事業、読書会など成人向け事業を旧図書館から引き続き行っています。



閲覧室児童コーナーの様子

冒頭に書きました歓声でオープンし、1,600冊の貸出を記録した開館日から半年が経過して、旧図書館の頃と比較すると、貸出冊数で1割程度、来館者数で3割程度の増が続いています。特に、今まで多くなかった高校生や、階段が無く利用しやすいためか、高齢者の方の来館が目立って増えています。

図書館サービスだけでなく、買い物のついでに寄ってもらえる、町民の皆さんに親しまれる施設になるようにと考えています。

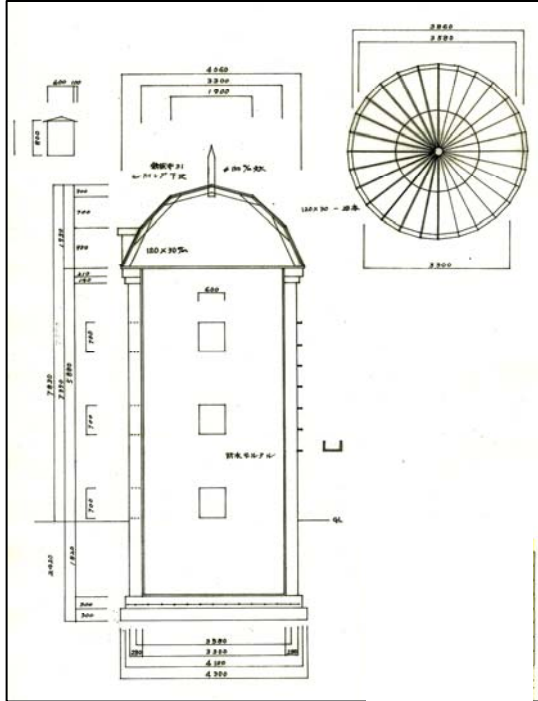


1階平面図 (2階は会議室のみ)

遠軽町図書館の概要

- ◆改修工事費 約3,300万円
- ◆改修事業期間 平成20年10月2日～11月30日
- ◆建物床面積 総床面積 1,447.69㎡ (1階 1,250.81㎡ 2階 196.88㎡)
- ◆蔵書冊数 112,361冊 (平成21年3月31日現在)
- ◆受入逐次刊行物数 雑誌40誌 新聞数10紙

北海道立図書館のサイロ



当館の公有財産の1つにサイロがあります。左は工作物として整理されている図面の一部です。

サイロの高さは地上7.8m、地下2.4m余り。土台の外径は4.3mとあります。

昭和10年、この地で酪農業を営んでいた方がデントコーン用に建てられたものですが、昭和42年に当館が札幌から移転した当時は、東南隅の坂の上に位置していました。

江別市の市道拡幅工事のため、平成元年から2年にかけて、敷地東側の一部を約4mの幅で260m余りに亘り、売却することになりました。

そのとき、売却地上にあり、工事の支障となるサイロの取り壊しが検討されたそうですが、存続を求める住民の要望や関係者の尽力により、約1ヶ月をかけて現在の場所、正面入口横に移設されたということです。今から20年ほど前、このような出来事があった「サイロ」は、今年2月、「近代化産業遺産群続33」の1つに認定されました。



←坂を写真左から右へ移動する様子。
写真の日付が「90.11.6」とある。

↓現在の位置に移設中の様子。この時点で日付は「90.11.28」となっている。



参考文献：『としょかんのサイロ』（北海道立図書館 1990）、『江別れんがアラカルト』（江別まちづくりフォーラム編・刊 1992）

掲 示 板

<北海道立図書館協議会委員>

今年度の委員を紹介します。任期は平成 22 年 10 月 31 日までです。

氏 名	適用区分	備 考
貴 戸 和 彦	学校教育関係者	退任 (H21.6.17 付け)
大久保 雅 人	〃	新任 (H21.6.18 付け)
西 村 元	〃	
吉 田 真 弓	社会教育関係者	
横 山 一 男	〃	退任 (H21.6.17 付け)
澤 田 満	〃	新任 (H21.6.18 付け)
臼 渕 ひとみ	家庭教育関係者	
五十嵐 憲 子	〃	
河 野 博 光	学識経験者	
下 田 尊 久	〃	
高 原 一 隆	〃	
小 杉 元 一	〃	

<北海道立図書館情報システム更新のお知らせ>

平成 22 年 1 月から北海道立図書館情報システムが変わります。新システムでは、北方資料のデジタルライブラリーなど、内容や機能の充実を図っています。

なお、移行作業及び蔵書点検のため、12 月初旬から年末にかけて、インターネットによるサービスの停止や臨時休館をします。詳しい日程が決定次第、ホームページ等でお知らせします。

操作方法については、ホームページ等で広報していきますが、図書館等関係職員を対象とした「新システム説明会」を次のとおり予定しています。

申し込み方法などは、別途ご案内します。

第 51 回北海道図書館大会の終了後

9 月 11 日 (金) 13:00～ ホテルライフオーブ札幌

平成 21 年度全道図書館研究集会の終了後

10 月 14 日 (水) 13:00～ 札幌市中央図書館 講堂

所要時間はそれぞれ 1 時間 30 分程度です。

<職員人事異動>

退職 平成21年3月31日付け
館長 加瀬 康郎

転出 平成21年4月1日付け
業務部長 湯田 俊一 (近代美術館事業部長へ)

転入 平成21年4月1日付け
館長 巻 潤 雄二 (教育職員局長から)
業務部長 榎 本 幸 夫 (総務課主幹から)
奉仕課主査 吉 原 和夏子 (檜山教育局社会教育係長から)
資料課主査 原 田 英 明 (生涯学習推進センター主査から)

館内異動 平成21年4月1日付け
管理課主任 宮 崎 敏 幸 (業務課から)
奉仕課主任 小 川 靖 子 (資料課から)
参考調査課主任 大 塚 寿 信 (奉仕課から)
収集保存課主任 工 藤 尚 子 (参考調査課から)

北海道立図書館報 第187号

平成21年7月31日発行

北海道立図書館長 巻潤 雄二

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (業務部)

386-8522 (奉仕部)

386-8523 (北方資料部)

FAX 011-386-6906

E-mail: gyoumu@library.pref.hokkaido.jp

H P: <http://www.library.pref.hokkaido.jp>